

[成果情報名] 三重県におけるエスニック食材「レモングラス」の栽培および作業特性

[要約] 三重県鈴鹿地域では4月下旬から5月末までにレモングラスを定植することで、同年7月下旬から12月上旬まで葉鞘基部を収穫できる。当年株は7月および8月の生産が不安定となるが、越冬株を利用することで収量および品質を安定化できる。

[キーワード] エスニック食材、レモングラス

[担当] 三重県農業研究所 茶業・花植木研究室 花植木研究課

[分類] 普及

[背景・ねらい]

レモングラスはイネ科オガルカヤ属の多年草で、主にインド東部を原産とする「東インドレモングラス」と西インド諸島やマレーシア等を原産とする「西インドレモングラス」に大別される。そのうち、西インドレモングラス（以下「レモングラス」とする）はアジア・エスニック料理を特徴づける食材の一つとして、タイ料理を代表するスープ「トムヤムクン」の香り付け等に利用される。一方、レモングラスを含むエスニック食材は生鮮品の国内調達が難しいことから、近年、県内で生産流通体制の構築を進める動きがある。そこで、レモングラスの栽培および作業特性を明らかにし、三重県におけるエスニック食材安定生産技術の構築に貢献する。

[成果の内容・特徴]

1. 当年に定植・収穫したレモングラスの葉鞘基部収量は、株あたりでは株間 50 cm と比較して株間 100 cm で高くなるものの、単位面積あたりでは株間 100 cm と比較して株間 50 cm で高くなる（表 1）。草丈および芽数に対する基肥量の影響は小さく、窒素成分 0 ~ 1 kg/a の間で良く生育する（データ省略）。
2. 三重県鈴鹿地域では4月下旬から5月末までにレモングラスの株分け苗を定植することで、同年7月下旬から12月上旬まで葉鞘基部を収穫できる（表 2）。レモングラス葉鞘基部の平均収穫量は作業員 1 名・1 か月あたり約 66 kg、実作業時間は 1 a あたり約 68 時間となり、その 8 割以上を収穫および出荷調製作業が占める。
3. 当年に定植したレモングラスは7月および8月における葉鞘基部の収量および品質確保が難しいが、在圃越冬株を利用することで同期間の収量および品質を安定化できる（表 3）。すなわち、作付け 1 年目は 50 cm 間隔に定植した当年株を 1 株置きに 12 月まで収穫し、翌年 7 月以降に在圃越冬株を順次収穫することで安定的な生産体系となる。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は三重県鈴鹿市の排水良好な畑地圃場における栽培試験結果である。レモングラスは栄養繁殖性の C₄ 植物であるため、株分け苗を用いたマルチ栽培を基本とする。
2. レモングラス越冬株の単位面積当たりの生草収量は作付け 2 年目に最大となるが、3 年目は死滅株が多くなり、越冬率が極端に低下する（兵庫県成果情報 2003）。

[具体的データ]

表1 定植間隔および定植時期がレモングラス葉鞘基部の収量および品質に及ぼす影響^z

定植 間隔	定植日	8月9日			9月13日			11月18日		
		収量		A品率 ^y	収量		A品率	収量		A品率
		(kg/株)	(kg/a)	(%)	(kg/株)	(kg/a)	(%)	(kg/株)	(kg/a)	(%)
50 cm	4月20日	0.74	148	62	0.93	186	85	1.25	250	94
	5月23日	0.35	70	56	0.66	132	70	0.78	156	96
100 cm	4月20日	1.10	110	45	2.10	210	76	1.74	174	88
	5月23日	0.33	33	28	1.11	111	84	0.84	84	82

^z 三重県鈴鹿市現地圃場（試験規模約150m²）での調査結果を示す（2022）。数値は各区生育中庸な3株の平均値を示す。

^y 病虫被害のない葉鞘基部調製重のうち、基部径15mm以上の重量比を示す。

表2 レモングラスの出荷実績（Ⅰ）および実作業時間（Ⅱ）^z

(Ⅰ)	出荷量	A品率 ^y	(Ⅱ)	作業時間	割合
	(kg)	(%)		(h/a)	(%)
7月	8.4	63	土づくり・耕起	0.3	0.4
8月	25.6	74	畝立て	0.5	0.8
9月	98.1	88	定植	3.3	4.8
10月	104.0	100	除草	1.5	2.2
11月	100.3	100	収穫調製	60.3	88.2
12月	63.6	100	片付け	2.5	3.6
平均	66.7	95	計	68.4	100

^z 三重県鈴鹿市現地圃場での実証結果を示す（2022）。数値は現地農家（花木主体）での作業員1名あたりの実績値を示し、主作目の管理作業に影響のない範囲かつ需要量に応じて実施した（実収面積215m²）。

^y 病虫被害のない葉鞘基部調製重のうち、基部径15mm以上の重量比を示す。



写真1 収穫調製の様子（左上下）、収穫物外観（右）

表3 在圃越冬したレモングラスの葉鞘基部収量および品質の比較^z

試験区		7月収穫（7/18）			8月収穫（8/22）		
		収量	A品率 ^w	香りの強さ ^v	収量	A品率	香りの強さ
		(kg/a)	(%)		(kg/a)	(%)	
当年株 ^y	株分け苗	53	3	○	97	68	◎
	ポット苗	78	38	△	107	73	◎
越冬株 ^x	べた掛け・有	444	54	◎	606	81	◎
	べた掛け・無	400	42	◎	568	78	◎

^z 三重県農業研究所花植木研究課試験圃場での試験結果を示す（2023）。数値は各区生育中庸な3株の平均値を示す。

^y 緑葉が抽出してきた在圃越冬株を掘りとり株分けした1本苗（株分け苗）、および前年に株分けした1本苗を10.5cmポリポットに鉢上げ後、ビニールハウス内で越冬管理した苗（ポット苗）を2023年4月25日に50cm間隔で定植した。

^x 2022年6月11日に株分け苗を100cm間隔で定植後、同年12月20日に地際から約30cm直上の葉を切除し、不織布を被覆して在圃越冬した。

^w 病虫被害のない葉鞘基部調製重のうち、基部径15mm以上の重量比を示す。

^v 収穫物（A品）を新鮮なうちに水で煮出して官能調査に供した（◎：強い、○：やや強い、△：やや弱い、×：弱い）。

（服部侑）

[その他]

研究課題名：タイフード素材の県内産供給のための栽培適応性と産業化の可能性

予算区分：共同研究

研究期間：2021～2023年度

研究担当者：服部 侑、小林 泰子、市川 昌樹、三井 友宏（三重県農業研究所）

宮村 かおり、小村 愛（ヤマモリ株式会社）

発表論文等：